

被災地への職員派遣



現在、市では東日本大震災の復興支援のため福島県南相馬市、宮城県多賀城市に職員を派遣しています。

南相馬市は、震災だけでなく原発事故の影響で大変な被害を被り、現在、佐野市を始め、全国から30人を超える職員が派遣され、さまざまな復興支援事業に従事しています。

同市で従事する市の職員は「全国から集まった派遣職員が復興に向けて一緒に取り組むという得難い体験が、自分自身の財産となっています。この経験を市の業務に活かせるよう今後も頑張ります」と話しました。

また7月1日からは職員1人を、下水道などの公共設備の復旧・復興のため、宮城県多賀城市に派遣しています。派遣される職員は「快く送り出してくれる仲間感謝します。この派遣で得る経験を、日々の業務に、そして万一のための教訓として今後に活かせるよう、復興支援に尽力します」と決意を述べました。

市は、今年度末まで、福島県南相馬市に1人、宮城県多賀城市には職員2人を交代で派遣し、それぞれの地で復興支援に協力していきます。

さのまるショップオープン



まちなか活性化ビル「佐野未来館」(高砂町)3階のチャレンジショップ・フロアに「さのまるショップ」がオープンしました。

さのまるグッズ、佐野ブランド認証品などを販売しているほか、コーヒー、紅茶なども用意されています。営業時間は午前11時から午後3時まで。木曜日が定休日です。さのまるの可愛いグッズを探しに訪れてみてはいかがでしょうか？



※さのまる自身は
お店にはいません

また、同じフロアに地元の作家によるハンドメイド雑貨などを展示・販売する「サロンみちくさ」(旧「レンタルボックス輝良里」)がリニューアル・オープンしました。合わせて訪れてみてはいかがでしょうか。(市民記者・吉井貴子)



Town Topics
まちの話題

クールアースデー
2012
in SANO

7月1日(日)、佐野駅前交流広場周辺で「クールアースデー2012 in SANO」が開催されました。

このイベントは、佐野市環境ネットワーク会議が、地球環境への関心を高めることを目的に開催しており、エコカーや太陽光パネルの展示コーナーや、エコバックづくりやソーラー工作といった体験コーナーが設けられ、温暖化防止の取り組みや省エネ活動などが紹介されました。

また、今年は佐野駅前交流プラザ「ぱるぽと」の2周年記念イベントも同時に開催され、市のブランドキャラクター「さのまる」や、地球温暖化防止キャラクターの「そらべあ」も駆けつけ、会場を盛り上げました。

午後5時すぎには、廃油で作ったエコキャンドルが点火され、会場を彩りました。また、ぱるぽと内ではゴスペルコンサートやジャズライブなどが行われ、夜の深まりとともに会場は幻想的な雰囲気包まれました。

猛暑の日々が続きますが、健康に留意しつつ、節電をはじめとした省エネを心がけましょう。

耕作放棄地再生へ

7月7日(土)、船越北町会で、地元住民と地元企業、行政の協働で、今年第2回目となる耕作放棄地の農地への再生作業が行われました。



▲作業に従事した地元町会
企業・行政の約80人

小雨が降る悪条件の中、集まった約80人は、前回整地し、種を植え付けた畑の除草と用水溝の設置作業を行いました。

参加した地元企業の代表は「この地に進出して16年が経ちましたが、ようやく地元民となれた気持ちです。今後も地区住民として社を挙げて協力していきます」と力強く宣言しました。また、主催した船越北町の亀山春夫町会長は「今後、この土地での作物で、収穫祭を開催し、地区の連携と活性化を図りたい。この地区の取り組みが、同じ悩みを抱える他地区の解決のモデルとなればうれしいです」と話しました。



注
目

健康
福祉

募
集

催
し
物

お
知
ら
せ

講
座

話
題

さの秀郷まつり、くずう原人まつりが開催されます

▶ 昨年のさの秀郷まつり



先月27日に「ためまふるさと祭り」が開催されたのを皮切りに、8月には「さの秀郷まつり」・「くずう原人まつり」が開催されます。

【秀郷まつり】

8月10日(金)から12日(日)の間に開催される今年のさの秀郷まつりは、20周年を記念し、文化会館で前夜祭を開催。前夜祭では子どもファッションショーや、市のブランド姫である増田麻美さんら5人のミス日本によるファッションショーが行われるほか、ブランド大使・ダイヤモンド☆ユカイさんによるライブが開催されます。

土・日曜日もさまざまな催しが行われますので、ぜひご来場ください。



【くずう原人まつり】

8月25日(土)と26日(日)、嘉多山公園(嘉多山町)を舞台に開催されます。今年も火起こしなどに挑戦する「チャレンジパーク」が行われるほか、両日さまざまな催しをご用意されますので、ぜひご来場ください。



講演会「佐野市とその周辺の自然災害」

7月17日(火)、文化会館小ホールにおいて、元・気象庁長官である小野俊行さんによる講演会「佐野市とその周辺の自然災害」が開催されました。

講演会で小野さんは、地震や津波、台風や竜巻、ゲリラ豪雨といったさまざまな自然災害を説明してくださったほか、佐野市において災害が発生する可能性について言及してくださいました。

近い将来、起こるといわれる首都直下地震などの大震災。独立行政法人防災科学技術研究所が、これまでの地震観測や地下構造を基に調査・公表しているデータによると、この佐野市においては、今後30年に震度6強以上の地震が生じる可能性は0.1%から3%程度と推測されていて、比較的小さな値とのことでした。

小野さんは講演の最後に、災害に備えるにあたっては「とにかく行動することが大切です」と話されました。8月から9月にかけて、台風やゲリラ豪雨の被害が懸念されます。「まさか」起こるとは思わなかった、から、「いつか」起こる災害、と考え、早め早めに安全行動をするよう、心がけましょう。



▲元・気象庁長官 小野俊行さん

佐野市 ばんざい

トヤ(鳥屋)が山頂の意になった

鶏にむしりや鷹たかを飼って養う鶏(鳥)小屋をトヤといいます。夏の終わり頃、鶏の羽は抜け替わります。その時期になると、ほとんど餌を食べないため、体力が衰えて鶏小屋に籠りがちになります。

50年〜60年前まではほとんどの農家で、鶏を飼っていました。当時は放し飼いだだったので、餌を探しながら屋敷内を歩き回っていました。ところが雌鳥めどりがトヤニカカッテ(鶏小屋に籠って)活動しなくなると産卵しなくなってしまう。

ニヤットリ(鶏)がトヤニカカッタ(鶏小屋に籠った)モンだから、卵は当分、食ベランネーカンネ(食べられないからね)。

秋になると、シベリアから群れをなして飛来するツグミや在来の小鳥を捕獲して食用にするため、山中にわな(かすみ網など)を仕掛けました。昭和の初め頃は、わなを仕掛けることをトヤハル・トヤブチスルなどと言いました。

「あのワカイシ(青年)ツタラ、鳥捕りが大好きで、ヘシテオキ(一日置き)に山に登っチャア、トヤハッテル(わなが仕掛けてある)場所へイグン(行くん)だったさ」

小鳥は木の枝から枝へと飛び回りながら、山を渡り歩くので、その習性を利用して山頂にトヤハッテることから、飛駒・野上・葛生地域などでは、山頂(峰)をトヤとか、トヤッペなどというようになりました

(市民記者 森下喜一)